

# 資料

## 吃音教育セミナー報告



# 吃音教育セミナー報告

本研究活動の一環として表記のセミナーを企画・実施した。

吃音のある子どもの教育に関する基礎情報と本研究における議論を公開し、吃音のある子どもが、吃音、自己と上手く向き合い、自己肯定感を育むためには、どのような支えが大切なのか、可能なのか、議論を深めること、及び、その場に参加した教師、吃音当事者等から、資料収集を行うことを目的として実施した。

企画・運営は、本研究の所内研究分担者を中心に、研究協力者、研究協力機関の代表協力者の協力により行われた。セミナー開催の前日には、岡山市立石井小学校において、本報告書の第5章で報告した青山氏の授業研究が計画されていた経緯もあり、岡山市での開催となった。以下に、セミナーの概略を報告する。

**1. 主 催** 独立行政法人国立特殊教育総合研究所・課題別研究「言語に障害のある子どもへの教育的支援に関する研究－吃音のある子どもの自己肯定感形成を中心に－」研究チーム

- ・所内研究分担者：牧野泰美・松村勘由・後上鐵夫・伊藤由美
- ・研究協力者：青山新吾・伊藤修二・桑田省吾・小林宏明・松村玲子
- ・研究協力機関：岐阜吃音臨床研究会（代表協力者：廣 寛 忍・板倉寿明）  
ことばの臨床教育研究会（代表協力者：瀧田智子）

**2. 期 日** 平成17年11月5日（土） 10：00－16：30

**3. 会 場** 岡山県総合福祉会館 大研修室（岡山市石関町2-1）

**4. 参加者** 80名

教員（幼稚園及び小学校のことばの教室担当者、通常学級担任、他）、医療・福祉関係者、吃音当事者、吃音の子どもの保護者、学生、等。  
中国・四国・近畿地方を中心に、九州、中部、関東地方から参加があった。

**5. 日 程** 9：30－ 受付

10：00－ 挨拶及び企画趣旨説明…牧野泰美

10：15－ 吃音教育基礎講座

<前半>廣 寛 忍「吃音についてわかっていること」

<後半>小林宏明「吃音教育臨床を考える」

12：00－ 休憩

- 13：00－ 研究経緯と課題…牧野泰美  
13：30－ シンポジウム  
司会進行：松村勘由  
話題提供：篠塚喜美恵  
菊地利江  
青山新吾  
まとめ：後上鐵夫  
16：20－ 閉会挨拶  
16：30 終了

## 6. 概 略

午前中は、セミナーの企画趣旨説明を研究代表者が行った後、参加者と吃音研究及び吃音のある子どもへの指導・支援の現状を共通認識・整理するための基礎講座を実施した。

前半は、現在までに「吃音についてわかっていること」について、何が未解明であるのかも含めて、原因論、発生率、男女比、発吃、自然治癒、吃音の特徴、幼児期の特徴、吃音の変化、吃音問題の捉え方、吃音のある子どもの自己意識、吃音の子どもの保護者の思い、等についての概説がなされた（本報告書の第2章及び第3章参照）。

後半は、「吃音教育臨床を考える」と題して、成人吃音者に実施した、ことばの教室で受けた指導・支援についての調査結果にも触れながら、吃音を話しことばの問題だけではなく、心理的、社会的な問題として捉えた上で、どのような指導・支援ができるか、何が必要かといった観点から概説がなされた（本報告書の第3章参照）。

休憩をはさんで、午後は、研究の経緯と課題について研究代表者が概説した後（本報告書の第1章及び第2章参照）、吃音の子どもの自己肯定感を支えるための視点をテーマにシンポジウムを実施した。シンポジストは、吃音当事者、保護者、ことばの教室担当者の各々の立場の3名であった。話題提供の概要は次の通りであった。

当事者の立場からは、小学生時代からの自分の歩みを、電話が苦手だったこと、かけ算九九が分かっているのに言えずに嫌な思いをしたこと等、様々なエピソードや就職面接での体験談などを交えながら紹介され、思春期には吃音のことで誰かに相談するという考えはなかったこと、今思えば吃音（の特徴）を早くに知っていたら、不要な不安は持たずにすんだかもしれないこと等、その時々、自分の吃音を、吃音のある自分をどう考えてきたかについて語られた。最近では、自分のことを人に分かってもらう努力、伝えていく努力が必要だと感じていること、何かうまくいかないとすれば、吃音があるからではなく、人としての自分のいたらなさを目を向けてみなくてはと感じていること、等とともに、ことばの教室の先生には、具体的にどうしたらよいのか、一緒になっていろいろと考えたり工夫してもらえたら、という思いも述べられた。

保護者の立場からは、中学生の娘さんとのそれまでの関わりを振り返りながら、家族のこと、学校のこと、ことばの教室のこと、吃音者の集まりのことなどの話題に触れられた。ことばの教室では他の保護者の方たちと親の会を作り、様々なことを保護者同士で話したこと、そこでは様々な方の日常生活の出来事への怒り、悔しさ、悩みが語られていたこと、話せる仲間の存在は親にも必要なこと、また、成人の吃音者との出会いは親にとっても様々なことがわかりよかったこと、家族の中では吃音の話が自然な形でオープンにできていること、等を語られた。さらに、嫌な思いも多く経験したが、現時点で娘さんが自分の吃音をあまりマイナスには捉えていないこと、それはことばの教室の先生や、吃音のある仲間との関わりが大きかったとの印象を述べられた。

ことばの教室担当者の立場からは、教室担当者としての歩みを振り返りながら、吃音のある子どもとの関わりのエピソードをもとに、吃音と向き合っていく上で、自分らしくいられる、ないしは自分らしさを見つけられる場所であり、穏やかに過ごせる場所であり、楽に過ごせる場所であり、そして時には歯を食いしばってつきあえる場所でもある、そのようなことばの教室の特徴を十分生かすことの大切さが語られた。また、自己肯定感を支える上で、何をしたらよいか、何をすべきかとは逆に、自己肯定ができていない状況を想定してみることを提案され、そのような状況になることを避けるという発想からの取り組みについて触れられた。さらに、吃音について話題にする際も、第三者からの悩みごとの相談という想定で考える等、子どもの状況に応じた柔軟な発想の重要性に触れられた。

シンポジストからの話題提供の後、参加者を交えての討議がなされた。保護者や子どもに吃音のことを伝えていくことの重要性と難しさ等が議論の中心になったが、様々な立場の参加者同士が、相互の話に耳を傾け、教室担当者、保護者、吃音当事者の様々な思いや、気持ちの揺れに、各々が触れることができた意義深い時間であった。

### <参加者の感想>

- 子どもに吃音があります。日常生活の中で自由に、吃音についての悩み、学校での些細な出来事、疑問など、家庭の中で話せる環境作りに心がけています。少しでも暮らしやすくする工夫など子どもと共に考えています。今日は、とても有意義な時間を過ごさせて頂きました。参加して良かったです。私が心に感じたこと、少しずつ子どもに伝えていけたらいいなと思います。(吃音当事者・保護者)
- 濃い時間をありがとうございました。ことばの教室の先生は違うでしょうが、一般の先生は吃音の知識が少ないと思います。もう少し吃音の知識を得て頂ければ、無理解による言動はなくなるのではと思います。吃音者の自分が吃音の息子にできることは色々あるけれど、どもりながら生きていく姿を見せることだと思っています。(吃音当事者・保護者)
- インターネットや雑誌などで、あらゆる吃音関係の情報がある中で、正確な情報・知識

を伝えるということが大切だと思いました。(吃音当事者)

- シンポジストの方々の違う立場からの体験談を聞くことができ、とても有意義で感激しました。吃音に対するイメージが変わりました。(吃音当事者)
- 心に迫ってくる会に参加でき良かったです。自分が子どもたちとなぜ吃音について話し出せなかったのか、それを反省しながら明日からの指導に向かっていきたいと思えます。吃音の子どもと小学生のこの時期を添って生きていけるようになりたいと願っています。(ことばの教室担当者)
- 「吃音のことを誰にも話せなかった」とか、逆に「あっけらかんと話してきた」とか、シンポジストの3人のお話に共通することとして「吃音の話をする」ということがあったように感じました。子どもにとっても親にとっても話すことのできる「関係」があるかどうかがとても意味あることだと思いました。通級担当者のできることの一つとして、そのような関係を作っていくことなのではないかなと思います。(ことばの教室担当者)
- 吃音は古来からの問題であるだけに、偏見も根強いことを改めて思った。自分たちで当たり前と思っている知識・情報を、子どもの周囲にきちんと伝えずにやってきてしまっていることに気づいた。(ことばの教室担当者)
- 吃音問題を考える視点はかなり整理されてきた感があります。しかし、保護者や子どもへの臨床では、同じような臨床に見えて、臨床家の吃音観が根本的に違うことで、実際はかなり異なっていると思います。臨床の部分はもっともっと考えていければいいと思います。(ことばの教室担当者)
- いろいろな立場からの話をまとめてうかがえ、勉強になると同時に、自分の指導を振り返り思うことが多くありました。ありがとうございました。(ことばの教室担当者)
- シンポジストの方のように、「笑い」ながら自分の吃音について語れる、素晴らしいことと思いました。(ことばの教室担当者)
- 吃音を持つ子の保護者として、また、通常学級の教師として、午前の基礎講座では、吃音について今現在分かっていることを聞き、自分の中の吃音の知識をかなり整理できました。また、吃音問題を考える際の視点や支援の仕方、吃音教育臨床で必要なことを整理した形で聞き、これはすぐ同僚に伝えることができると思いました。午後は3人の方の発表をうなずきながら聞く内容が多くありました。個人的に成人の吃音者と話したり、保護者の方と話したりすることはありましたが、発表というまとまった形で聞いたのは初めてでした。発表者の思いがよく伝わってきました。また、ことばの教室の様子や考え方も初めて聞きました。ほんとうに濃い時間でした。有意義な会の企画をありがとうございました。(保護者・通常学級担任)

(牧野泰美)